

12～15歳(小学6年生の一部～中学3年生)のお子さんと保護者の皆さまへ

# 新型コロナウイルス ワクチンについて

～子どもへの接種に対する考え方～



新型コロナウイルスワクチンは、これまで医療従事者や高齢者から接種が始まり、基礎疾患（持病）きそしっかんのある方、一般成人へと接種が進んでいますが、今年6月から12～15歳（小学6年生の一部から中学3年生）にもワクチン接種が承認されました。

ワクチン接種にあたっては子どもさんも保護者も、(1)ワクチン接種を受けるメリットとデメリット、(2)ワクチンを受けない場合のリスクを十分に理解することが大切です。

子どもへのワクチン接種については、さまざまな情報があって迷われると思いますが、ここでは日本小児科学会・日本小児科医会でまとめた考え方についてQ&A形式で説明します。





1



## 健康な子どもにもワクチンは必要ですか？



デルタ株に置き換わって流行が拡大していく中で、健康な子どもでも入院が必要なケース、中には集中治療が必要な重症例も稀に見られるようになりました。それを防ぐワクチンの接種は意義があります。

又、ワクチンだけで感染を完全に防ぐことはできませんが、周囲の人にうつしてしまう恐れも少なくなりますので、身近の人たちを守ることもつながります。



2

## 子どもにもワクチンの効果はありますか？



海外で12～15歳の小児にファイザー社のワクチンの治験が行われ、ワクチンを2回接種した1,119人では、新型コロナウイルスに感染した人は0人でした。一方、ワクチンを接種しなかった1,110人では、18人が新型コロナウイルスに感染しました。

同じく海外で12～17歳の小児にモデルナ社のワクチンの治験が行われ、ワクチンを2回接種した2,489人では感染した人は0人、接種しなかった1,243人では4人が感染しました。いずれのワクチンの場合でも、接種後には高い抗体価が認められました。

これらの結果から、ワクチンの予防効果が高いことが期待されます。



3



## ワクチンは安全ですか？ 副反応の心配はありませんか？



副反応については、上に述べた海外での小児への治験においては、8～9割の人に接種した腕の痛み、5～7割の人に倦怠感（だるさ）や頭痛、2～4割の人に悪寒（寒け）や筋肉痛、1～2割の人に38℃以上の発熱が見られると報告されています。若い人ほど、また1回目接種後より2回目接種後に副反応が見られやすい傾向があります。いずれの症状も接種の翌日に一番症状は強く、ほとんどの場合は2～3日で回復するようですが、日常生活に支障がある症状が続くときは医師に相談してください。

非常にまれに接種直後にアナフィラキシーという重いアレルギー反応が起こることがありますが、適切に対応すればほとんどの場合回復します。これに対応するため、接種後15～30分間は接種会場で様子を見る必要があります。

また、若い人はワクチン接種に際して（特に接種直後に）注射への不安や痛みによる